



創設の地

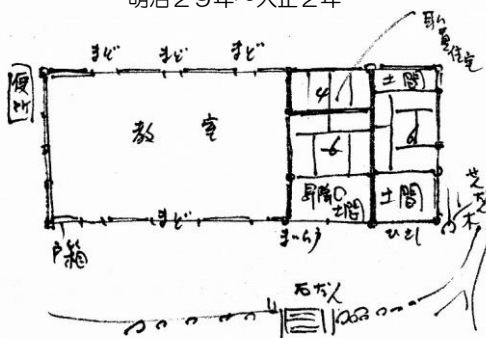
今年度（平成 26 年度現在）は掛川小学校創立 140 周年に当たります。創立元年には学校はどの位置にあったのでしょうか。140 年間にわたって地域の子もたちへ教育の場を提供してきた掛川小学校を歴史的な観点から振り返ってみたいと思います。

明治 5 年、沓掛村に寺子屋の延長である私塾的な教育機関「義校」が開設され、村内の上内垣外（かみうちがいと）の観音堂があてられました。観音堂には仏像が安置されていましたが、堂内はそこそこの広さがあり、義校開設の場所として供されたようです。

明治 6 年になると赤津村に第三十番小学校東明学校が初めてこの地方に公立の学校として創設されましたが、沓掛（今の定光寺町）や下半田川から子供が通うのは容易ではないことから、明治 7 年 1 月、観音堂にあった義校が東明学校出張所となり、村の子もたちがようやく公立の学校へ通えるようになりました。これが掛川小学校の始まりとして考えられているのです。

ですから掛川小学校創設は明治 7 年。発祥の地は定光寺町上内垣外（かみうちがいと）ということになります（地図参照）。初代校長は沓掛村出身の松本茂左衛門でした。

その後明治 8 年、校名を東明学校沓掛分校と改称し、新たに校舎を観音堂跡に新築しました。明治 16 年になると下半田川八剱社南に分教場を設立し、両村の子もたちは分かれて学ぶことになりました。沓掛の本校は明治 25 年に掛川尋常小学校と改称し、明治 29 年、観音堂跡に今までより広い新校舎に建て替えられました（図参照）。翌 30 年には下半田川分教場は廃止され、沓掛・下半田川地区の全児童が再び沓掛村の本校で一緒に勉強することになったのです。



図は「掛川小学校創立百年誌」より

